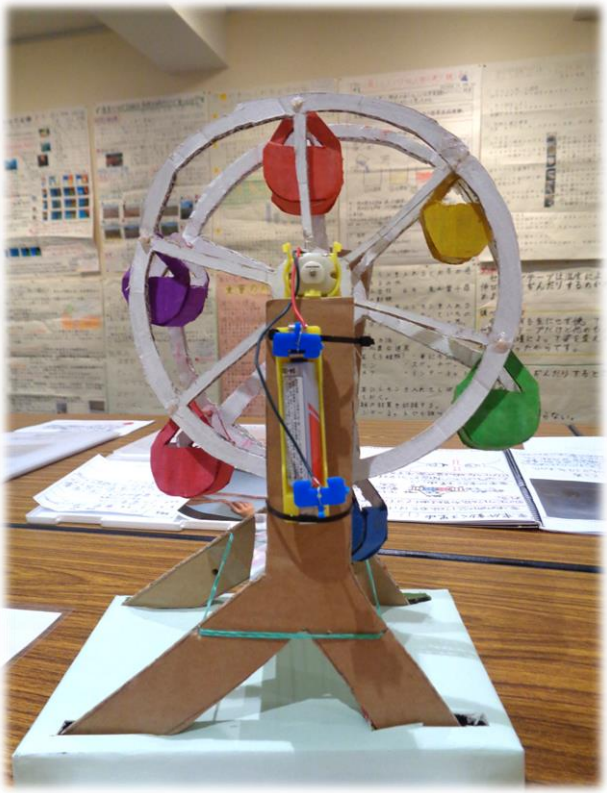
久留米市長賞

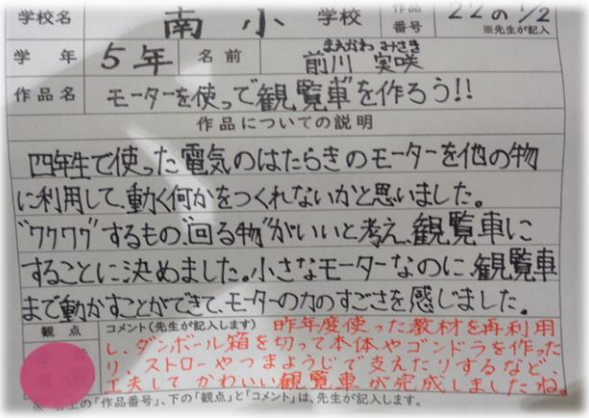
南小学校５年　前川　実咲さん

作品名「モーターを使って”観覧車”を作ろう ！！」









学校名　南小学校　22の1/2

学年　5年　名前　前川 実咲

作品名　モーターを使って観覧車を作ろう!!

作品についての説明

四年生で使った電気のはたらきのモーターを他の物に利用して、動く何かをつくれないかと思いました。”ワクワク”するもの、回る物”がいいと考え、観覧車にすることに決めました。小さなモーターなのに観覧車まで動かすことができて、モーターの力のすごさを感じました。

観点

コメント（先生が記入します）　昨年度使った教材を再利用し、ダンボール箱を切って本体やゴンドラを作ったり、ストローやつまようじで支えたりするなど、工夫してかわいい観覧車が完成しましたね。

※上の「作品番号」、下の「観点」と「コメント」は、先生が記入します。

【講　評】

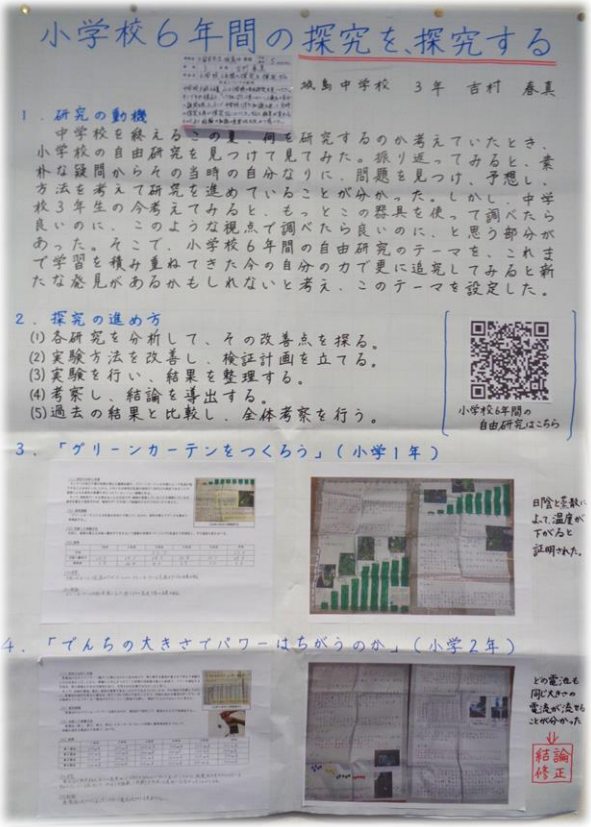


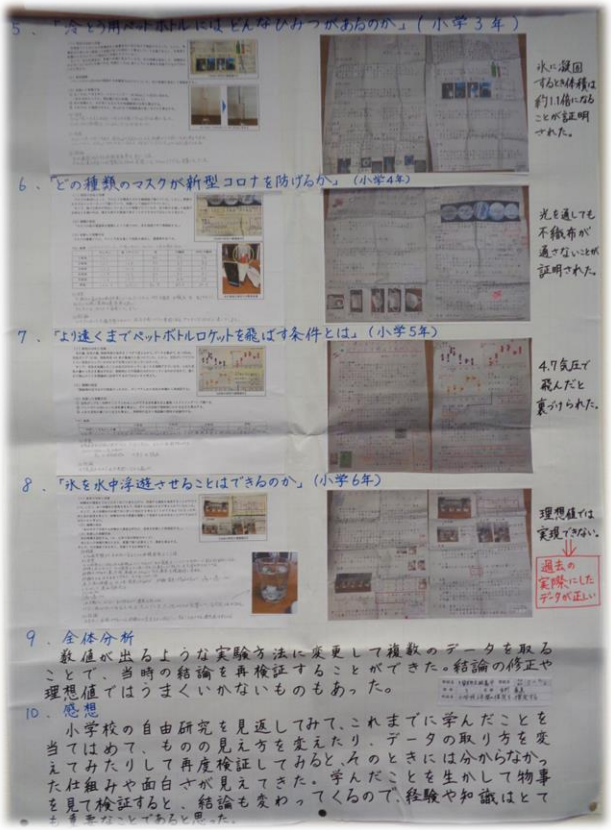
昨年度使ったモーターを再利用しようとした発想が素晴らしい。ダンボール箱を切って本体やゴンドラを作ったり、ストローやつまようじで支えたりするなどの工夫が見られます。自分で「わくわくするものを作りたい」という思いがしっかり伝わり、かわいい観覧車が完成しましたね。

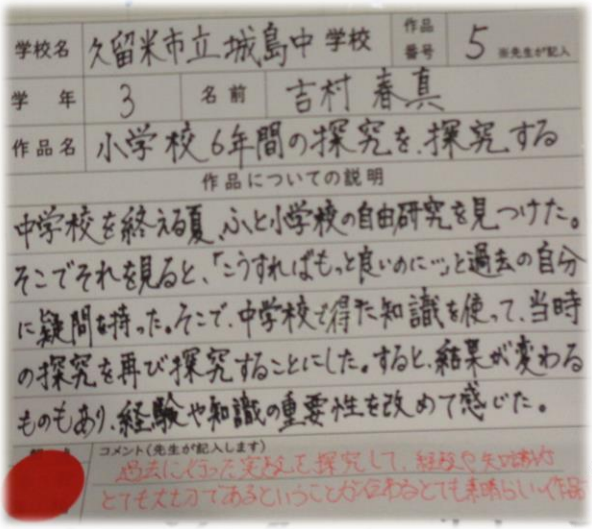
久留米市教育長賞

城島中学校３年　吉村　春真さん

作品名「小学校６年間の探究を探究する」







【講　評】

小学校６年間の自由研究を残していただけではなく、中学３年生になって過去の自分に疑問を投げかけ、自分がどれだけ成長したかチャレンジした探求心が立派です。

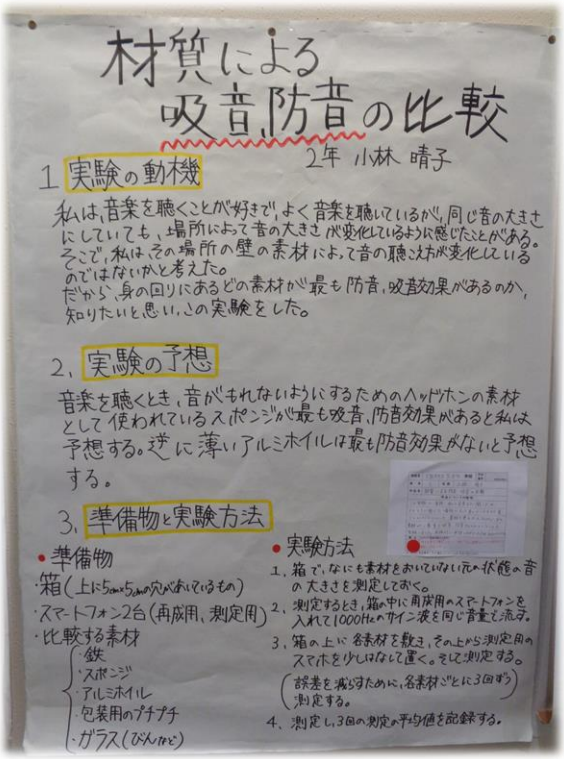
それぞれ異なるテーマを振り返り、しっかり検証したことで経験や知識の蓄積の大切さも学べました。ＱＲコードで誰もが過去の作品を見られる工夫も素晴らしいと思います。

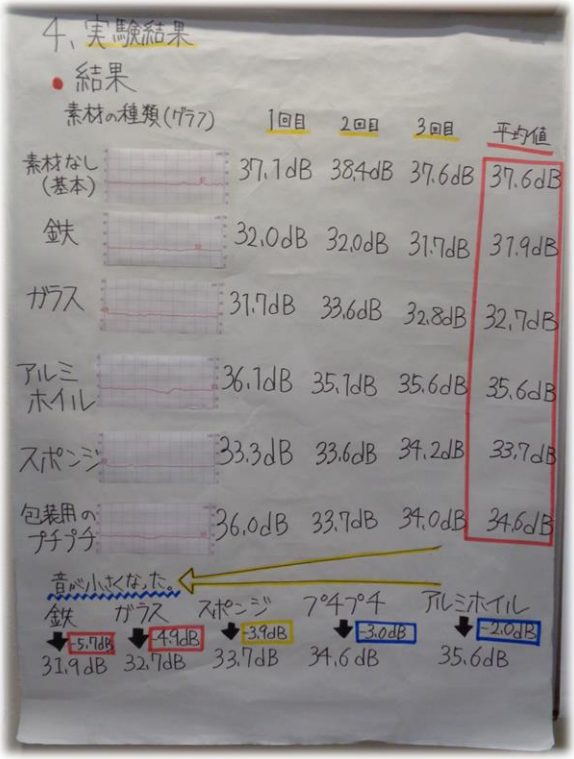


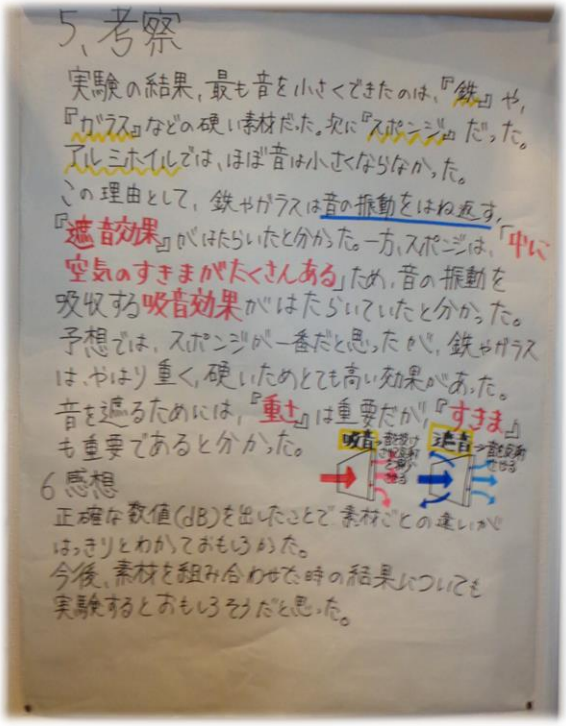
久留米工業大学賞【中学生の部】

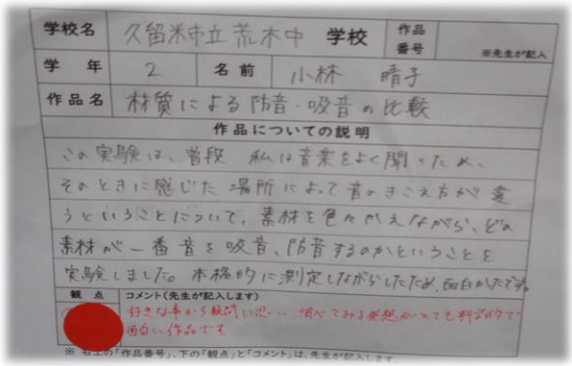
荒木中学校２年　小林　晴子さん

作品名「材質による防音、吸音の比較」









【講　評】

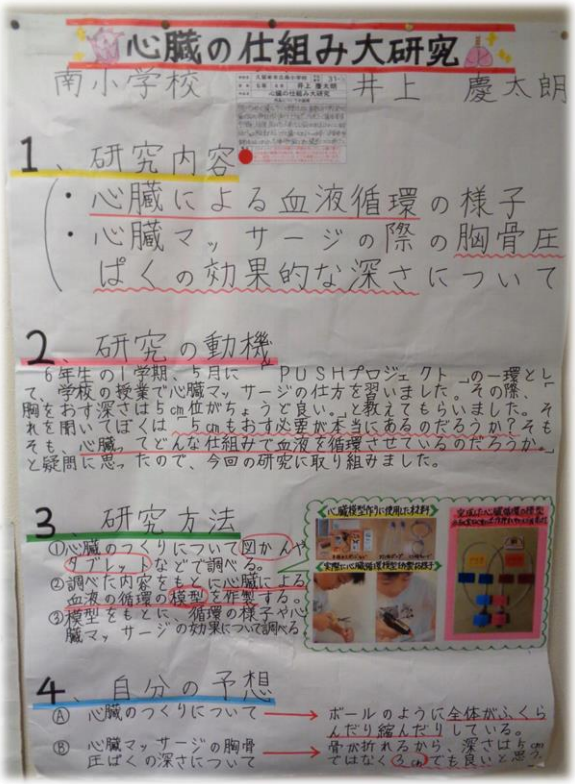
身近な素材による音の伝わり方・吸収のされ方に着目し、丁寧な測定と考察で「遮音」と「吸音」の違いを分かりやすく明らかにした優れた研究です。シンプルながら鋭い疑問であり、暮らしに役立つ音の工夫へと発展させた、からくり儀右衛門の精神を感じる作品です。



久留米工業大学賞【小学生の部】

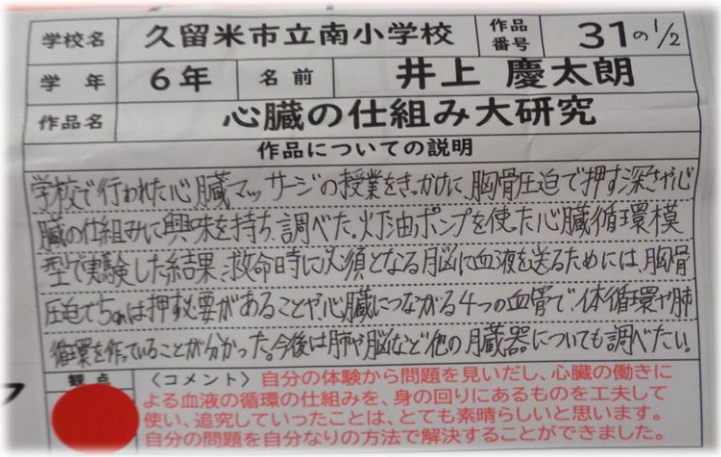
南小学校６年　井上　慶太朗さん

作品名「心臓の仕組み大研究」









学校名	久留米市立南小学校	作品番号	31の1/2
学年	6年	名前	井上 慶太朗
作品名	心臓の仕組み大研究		

作品についての説明

学校で行われた心臓マッサージの授業をきっかけに胸骨圧迫で押す深さが心臓の仕組みに興味を持ち、調べた。灯油ポンプを使った心臓循環模型で実験した結果、救命時に必須となる脳に血液を送るためには胸骨圧迫で5cmは押す必要があることや心臓につながる4つの血管で体循環や肺循環を作っていることが分かった。今後は肺や脳など他の臓器についても調べたい。

賞点

〈コメント〉自分の体験から問題を見いだし、心臓の働きによる血液の循環の仕組みを、身の回りにあるものを工夫して使い、追究していったことは、とても素晴らしいと思います。自分の問題を自分なりの方法で解決することができました。

【すばらしかったところ】
心臓マッサージを習ったことから、胸を押す深さに疑問を持ち、ちょうどよい押す深さを確かめた研究です。身近な材料を使って心臓の模型を作るだけでなく、それを使って本当にマッサージで血液が脳に届くのか、追究したところが光っています。

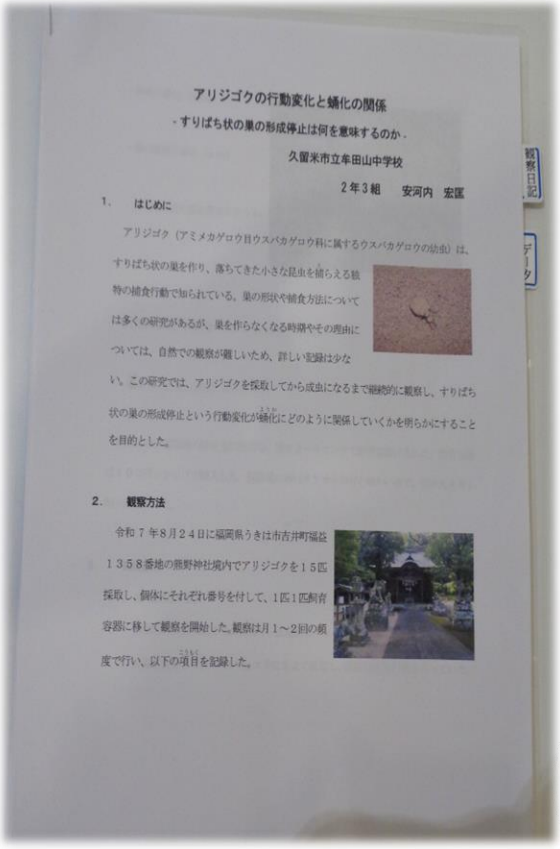


久留米からくり振興会賞

牟田山中学校２年　安河内　宏匡さん

作品名「アリジゴクの行動変化と蛹化の関係」





アリジゴクの行動変化と蛹化の関係

-すりばち状の巣の形成停止は何を意味するのか-

久留米市立牟田山中学校

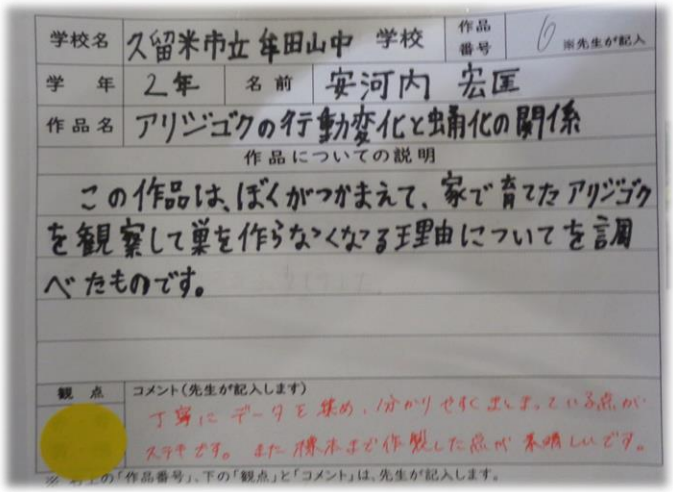
2年3組　安河内 宏匡

1. はじめに

アリジゴク（アミメカゲロウ目ウスバカゲロウ科に属するウスバカゲロウの幼虫）は、すりばち状の巣を作り、落ちてきた小さな昆虫を捕らえる独特の捕食行動で知られている。巣の形状や捕食方法については多くの研究があるが、巣を作らなくなる時期やその理由については、自然下での観察が難しいため、詳しい記録は少ない。この研究では、アリジゴクを採取してから成虫になるまで継続的に観察し、すりばち状の巣の形成停止という行動変化が蛹化にどのように関係していくかを明らかにすることを目的とした。

2. 観察方法

令和７年８月２４日に福岡県うきは市吉井町福益１３５８番地の熊野神社境内でアリジゴクを１５匹採取し、個体にそれぞれ番号を付して、1匹1匹飼育容器に移して観察を開始した。観察は月１～２回の頻度で行い、以下の項目を記録した。



【講　評】

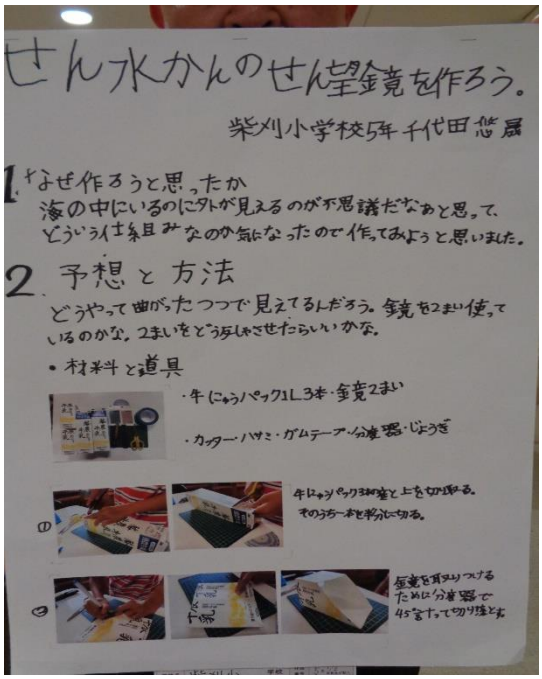
アリジゴクが巣を作らなくなる理由という、とても細かい部分に注目しましたね。採取から成虫になるまでのデータを丁寧に集め、分かりやすい文章でまとめている点も素敵です。さらに学名まで調べて標本を作製した点も素晴らしいと思います。



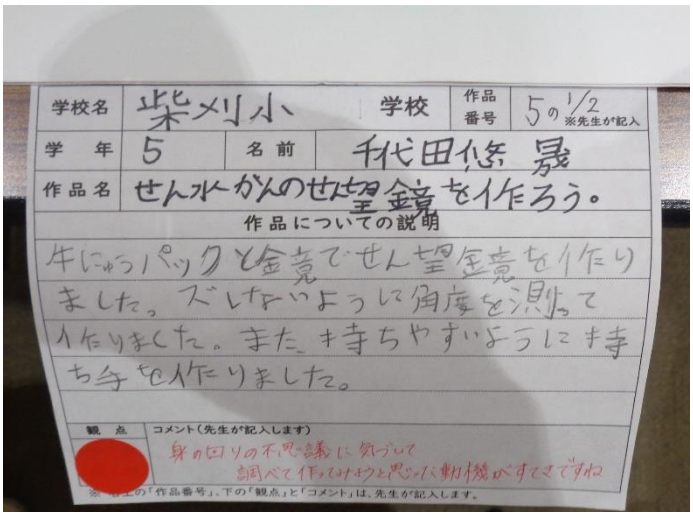
久留米からくり振興会賞

柴刈小学校５年　千代田　悠晟さん

作品名「せん水かんのせん望鏡を作ろう。」









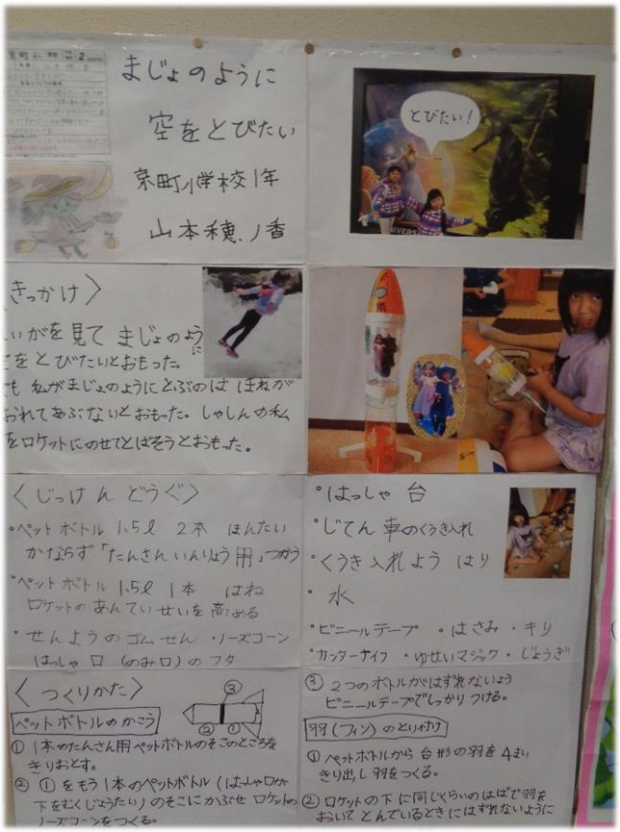
【講　評】

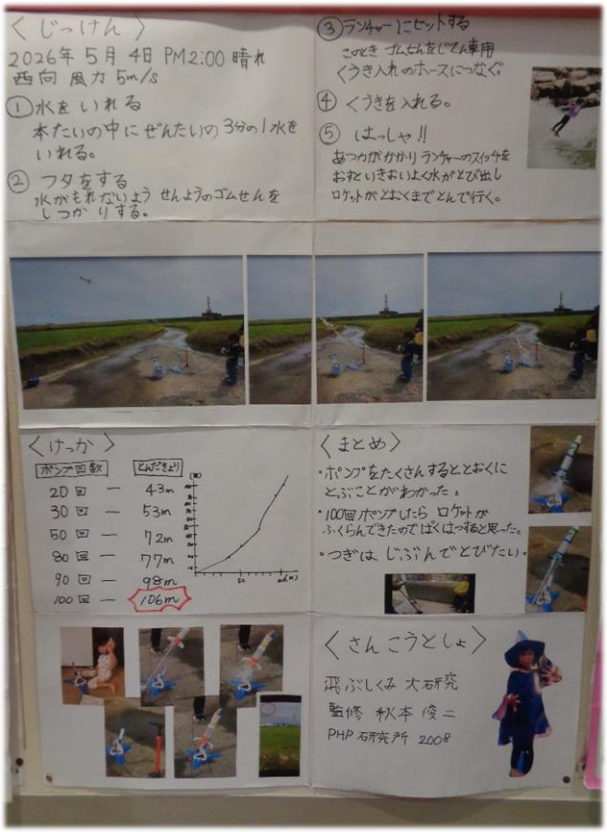
身の回りの不思議に気づいて、実際に潜望鏡を作ってみようと思った動機が素敵ですね。牛乳パックという身近なものを工夫し、鏡の角度によって見え方が違ったり、最後にラップのしんを使い、持ちやすい取っ手も付けたアイデアも良かったです。

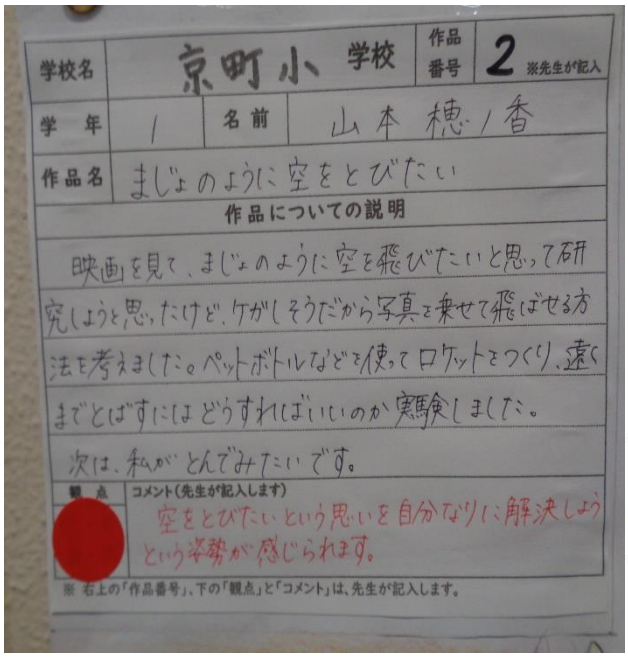
久留米からくり振興会賞

京町小学校１年　山本　穂ノ香さん

作品名「まじょのように空をとびたい」







学校名	京町小 学校	作品番号	2 ※先生が記入
学年	1	名前	山本穂ノ香
作品名	まじょのように空をとびたい		

作品についての説明

映画を見て、まじょのように空を飛びたいと思って研究しようと思ったけど、ケガしそうだから写真を乗せて飛ばせる方法を考えました。ペットボトルなどを使ってロケットをつくり、遠くまでとばすにはどうすればいいのか実験しました。

次は、私がとんでみたいです。

観点	コメント（先生が記入します）
●	空をとびたいという思いを自分なりに解決しようという姿勢が感じられます。

※右上の「作品番号」、下の「観点」と「コメント」は、先生が記入します。

【講　評】

映画を観て空を飛んでみたいという素直な思いを、実験に託して実践されました。空気をたくさん入れると、製作したロケットがより遠くへ飛ぶということに気づいた点も良かったです。自分も飛んでみたいという思いがより強くなったことでしょう。